

三井のリフォーム住生活研究所 所長 西田 恭子

東京ビックサイトでの エコハウス展

リフォームでは、電気の打ち合わせに時間がかかる。分電盤の容量の増加、コンセントの数、スイッチの位置だけでなく、テレビはどこに何台、間接照明、ダウンライトなどなど。ど

うやら民生・家庭部門でのCO削減とは裏腹に、エネルギーが増えそうな打ち合わせがある。

だが、今やエコハウスを含めて、環境問題は各企業とも外せないテーマになっている。

三月二日から同四日まで、東京ビックサイトで行われた「第一回エコハウス&エコビルディングEXPO」は、「新エネルギーWeek 2011」内で開催され、同時開催の展示会を含めて九万人以上の来場者があり、関心の高さを感じさせた。会議棟で行われた「専門技術セミナー」は基調講演、特別基調講演、五プログラムのあり合計一九名の講師が登場し、私もその中の一つのセッションで講演させていただいた。講演会の規模の大きさにも驚いたが、全セッション同時通訳付で、英訳テキスト

も配布され、地球環境の世界に関わるイベントであることを認識させられた。

そして講演参加費用は何と二コマ、一人二万五、〇〇〇円（早期申し込み特別料金二万二、〇〇〇円）だ。いまや情報は、どんなに費用を払ってでも取りに行く時代が来たのだろう。特に大和ハウス工業㈱、三菱地所㈱、㈱日建設の方の基調講演は、参加者が一、〇〇〇人の会場に入りきらず、入れない五〇〇人のためにビデオでのサテライト会場が設置された。

私はリフォーム部門を受け持って講演したわけだが、家庭部門においてのCO削減は減るところか、テレビは二台、パソコンは三台とエネルギー消費は増えるばかりだ。住み方と増える単身者世帯の問題を正面から見据える必要があるだろう。講演は、家族数による消費エネルギーの違いや、長期優良住宅での暮らし継がれる家、そして単身者の暮らしをテーマに構成し、今後はコンパクトな暮らしへの必要性を主張。暮らしを作り上げるリフォーム

ムが、CO削減と大きく関わっていることを話した。

講演後のVIPレセプションに参加して、さらに驚きは続いた。参加者五〇〇名の内、一〇〇名は海外の方で、壇上での挨拶もすべて同時通訳がついた。

一緒に講演した某ハウスメーカー研究所の所長が、イベントでは二〇分英語で講演されたとか。素晴らしいなど尊敬のまなざしになったのだが、「あれは人生最大のピンチでした」とおっしゃられ、何だかほっとしている自分があった。㈱建築研究所の村上理事長や㈱住環境計画研究所の中上



所長などエネルギーに関して第一人者の方々とお話させていただき、光栄に思うと同時に、この問題の奥の深さを痛感した。

(三月一〇日に記す)



西田恭子氏のプロフィール「一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手かけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム 住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。文化女子大学非常勤講師。日本女子大学住居学科卒。